

## 平成 26 年度第 2 回学術集会プログラム等検討委員会議事録

開催日時：平成 26 年 7 月 18 日（金） 12:00-13:30

場所：リーガロイヤルホテル大阪 6F 扇の間

出席者：田口敏彦（委員長）、持田譲治、徳橋泰明、山崎正志、島田洋一、根尾昌志（担当理事）、橋爪洋（吉田宗人委員代理）、寒竹司（委員長補佐）

欠席者：紺野慎一、小森博達、吉田宗人

### 議事録

#### 報告事項

#### 1. 第 43 回日本脊椎脊髄病学会学術集会終了報告

第 43 回の学術集会の報告が和歌山医科大学の橋爪洋先生から行われた。

参加人数は計 2181 名で、その内で医師の参加が 2045 名で、会員が 1800 名、非会員が 245 名であった。参加人数は一日目で約 70%が参加しており、三日目の参加人数は少なかった。応募演題の総数は 1319 題（主題関連が 529 題、一般が 790 題）で、採択演題数は 912 題（English poster award 候補 47 題を除く）で、採択率は 69.1%であった。ディベートセッション、ビデオセッションの参加人数が多く、好評であった。決算などは未だ完全に終わっておらず、今回は発表できない。

#### 委員からの意見：

- 応募演題数、会員数は年々増加しており、採択率を 70%に保っても演題数は増加し、会場が手狭になる。会場は収容人数の余裕をもって準備する必要がある。ポスターセッションを増やして対応するのも一案である。
- また、採択点数を一律に切ると、臨床の演題数が減る傾向になるため、会長の裁量で調節してもらって良い。
- 抄録集の制作費が高い。演題数が増えると経済的な負担が大きくなるため、今後 JSR 編集委員会とも相談していく。
- 学会アプリは学会必須のアイテムである。今回は大正富山製薬に負担していただいたが、今後どうするかを考える必要がある。
- 海外からの招待者および家族の宿泊費、観光費については、学会主催側が全てを負担することなく一律の規定を設けるのがよい。因みに日整会は 100 万円以下/人としている。
- 上記のことを決め、学会運営をスムーズに行うため、今後は学会として運営マニュアルを作成していく方向で検討する。和歌山医大に叩き台を作っていただき、学会ごとにアップデートしていく。

## 2. 第 45 回日本脊椎脊髄病学会学術集会準備状況報告

徳橋泰明委員から順調に準備が進んでおり、ポスター作成中であることが報告された。

### 審議事項

#### 1. 第 44 回日本脊椎脊髄病学会学術集会準備

山口大学（田口敏彦委員、寒竹司先生）及び運営事務局のコングレ担当者から準備状況の報告と懸案事項の説明があった。

学会のホームページを立ち上げ、演題募集は 8 月 27 日（木）～10 月 15 日（水）を予定している。最終調整後 8 月上旬に学会員に演題募集案内のリーフレットを送付する予定である。

会場の予定案、主題、シンポジウム、ディベート、ビデオセッションの案が示され承認された。事務局から企業への趣意書の依頼主を理事長とするか学会長とするか質問があり、学会長名で出すこととなった。また、学会の口座名義をどうするかについては、公認会計士の小見山先生に確認することとなった。展示やランチョンなどの価格設定については、第 1 回の当会議で決定した通り、例年を踏襲することが再確認された。また、2015 年にハワイで開催される Spine across the sea の紹介をする時間を学会中に設けてほしいという NASS からの依頼については、学会長に一任することです承された。さらに、English poster award の演題については、国際委員会の要請に基づいて今回から一般査読で審議され、採否は国際委員会が決定することです承された。

#### 2. 第 46 回日本脊椎脊髄病学会学術集会準備

島田洋一委員から準備状況についての報告があった。現在、日本コンベンションサービス、コングレ、JTB コミュニケーションズの 3 社の企画書、見積書を検討中であることが報告された。議論の結果、コングレが至適との意見が委員会としてまとめられた。それらを元に、10 月の理事会で学会担当会社が決定されることが確認された。

### その他

#### 1. 次回委員会開催日程

平成 27 年 1 月の専門医試験の時に行うこととなった。